

活用されている

「団体貸出し」

主体的に読書文化活動を行っている団体を支援するために、個人貸出しのほかに団体への貸出サービスを行っています。貸出対象は、学校や地域・家庭文庫、市内で継続的に活動する団体です。

何人もの人たちが共有して活用するため、個人貸出より長期間借りることができません。図書は二〇〇冊まで三ヶ月間、視聴覚資料は一ヶ月間借りられます。ただし、学級文庫については、学期ごとの貸し出しになります。

貸出冊数は多摩二十六市の中で第一位で、多くの団体に利用されています。

今年度は、二七八団体が利用しています。読書サークル、ボランティアの読みかせサークル、地域・家庭文庫、デイサービス等を行っている福

学校との連携
境をととのえる～

祉施設、児童館、学童クラブなどありますが、中でも一番多いのが小学校の学級文庫です。学級文庫は、児童生徒一人当たり三冊まで借りられます。本は、学校図書館専門員や担任の

先生が選んだり、クラス単位で図書館にきた児童たちが直接選んだりします。保護者が選ぶ学級もありです。この学級文庫のほかに、小学校への

団体貸出が活発に行われるのが、調べ学習のための資料提供です。

これは、学校の授業内容や行事に即したテーマの資料を貸し出しするもので、多種多様な要望が図書館に寄せられます。

たとえば、三年生の国語の教科書に「すがたをかえる大豆」という文章が掲載されています。大豆がきなこや豆腐・納豆・しょうゆなどにすがたをかえて、食べられていることがとりあげられています。このときには、大豆に関連した資料だけでなく、お料理の本・世界の食べ物の本・食べ物のお出でくる絵本など約六十冊が借りられました。

また、図画工作の授業の参考資料として、巨木や不思議な木の美術書・写真集などを用意したこともありま

す。「戦争・お米・菅平」の本などは、毎年利用されるテーマです。

種類の多さだけでなく、同じ本を複数用意できるのも図書館の強みです。「各クラス用に三セットずつ」などの要望にもできるかぎり応えるよう努めています。

学校図書館専門員と協力しながら、資料を求める教職員の方々の希望に応じた資料を提供していくことが、

重要な役割と考えます。

学校は、図書館の貸出資料によって授業や行事の充実をはかり、図書館は学校から提供される情報を、資料選定時の参考として資料の充実をはかる。このような連携をこれからも継続していこうと思います。

楽しい図書館訪問

「図書館の時間」

小学校と図書館との連携のひとつに、児童の図書館訪問があります。「地域を知る」授業の一環として来館される場合が多いのですが、そのほかに、調べ学習や学級文庫の本の選定を目的とする場合もあります。そんな時、図書館職員は、図書館の利用方

法を説明するだけでなく、絵本の読み聞かせ・紙芝居・ブックトーク・パネルシアターなどを行います。この事業を図書館では「図書館の時間」と名づけています。

「図書館の時間」は、子どもたちに図書館のことや本を読む楽しさを知ってもらおうのももちろんのこと、同行してきた先生たちにも図書館の利用価値について知っていただくよい機会です。

この「図書館の時間」を最も多く行っているのは、谷戸図書館です。

谷戸小学校と谷戸第二小学校に挟まれたような感じで建っている谷戸図書館は、両校の先生や児童から、「大きな図書室」のような、身近な存在として親しまれているようです。

各学期の始めと終わりに、クラス単位で図書館に来館します。一人二～三冊の貸し出しで終わる時もありますが、時間に余裕のある時は、絵本の読み聞かせを行ったり、図書館の使い方をわかりやすく説明したりしています。年間を通しておおむね二十回、貸し出しのみの場合を含むとその倍以上、「図書館の時間」を利用していたっています。

子どもたちは授業中に図書館に行くという、わくわくした気持ちと、緊張感を持って来館します。読み聞かせが終わると「楽しかった！おもしろかった」と喜んでくれます。そして、借りた本を大事に袋に入れて学校に



図書館の時間

図書館と小児 ～子どもの読書環

戻って行きます。いつも一〜二ヶ月前から予約が入り、学校の教育活動の中に定着していると感じています。

「図書館の時間」の実施には、日程の調整や内容の相談など、学級担任の先生、学校図書館専門員、図書館職員相互の連携が不可欠です。このようなつながりが、子どもたちのよりよい読書環境を作っていくと考えています。

司書、小学校に行く

市内の小学校から要請があれば、図書館司書が小学校へ出向いて、ブックトークや読み聞かせなどを行っています。

クラスごとに教室で行う時もあるれば、図書室で行う時もあります。

低学年の児童には、図書館の利用方法について、パネルを使って説明します。図書館の場所や開館時間、貸出冊数、利用カードの作り方、また、どんな本があるのか、どんな行事を行っているのか、司書はどんな仕事をしているのかなどのお話をします。

その後、テーマを決めて、何冊か本

を紹介しします。テーマは、「友だち」「戦争」「クリスマス」「木」など、日常生活や季節、自然に関するものを学年に合わせて選んでいます。

最後に、読み聞かせをして、作品を鑑賞します。

また、保護者からの依頼にも応じています。要望に合わせて、学級文庫の本の選び方や、読み聞かせに適した本の紹介をします。後日、資料リストを手に図書館で本を選ぶ姿も見られ、好評のようです。

これからも、このような活動を通して、子どもたちの読書活動はもろろん、それを支える大人の方たちも支援していきたいと考えています。

資料の再活用と 学校図書館の充実

除籍となった児童書や寄贈された児童書を、市内小・中学校で有効活用していただくために、配布を行っています。

配布にあたっては、まず、除籍資料の中でも比較的状態の良いもの、内容が新しいもの、学校



学級文庫

に需要がありそうなものを選別します。その後、谷戸図書館読書会室に配布資料を展示し、学校図書館専門員の方たちに選んでいただきます。

今年度は六月に行いました。小学校十五校、中学校三校、その他市内の施設三箇所の参加があり、約二〇〇冊の資料のうち、一七七〇冊が選ばれました。

この事業は、図書館資料の再活用・学校図書館の充実という点で、双方にとって意味があります。今後も継続していきたいと考えています。

教員研修で図書館も 知ってもらおう

毎年、市内小・中・高等学校の教員研修の受け入れをしています。対象は新しく採用された教員で、研修期間は三日間ほどです。

この研修は、教員の社会奉仕体験活動等を目的としています。が、図書館では、そのほかに次のような意義もあると考えています。

それは、教員に地域の図書館を知ってもらえ

ることです。子どもたちの日常の生活圏にあり、宿題や調べものにも利用される図書館がどのような場所なのか、どのようなサービス・資料を提供しているかなどを、目で見て肌で感じてもらえるよい機会だと考えます。また、教員に図書館事業を理解してもらうことにより、学校と図書館との連携がより円滑になるというメリットも期待されるところです。

学校図書館専門員と 司書の交流

学校との連携を深めるために、学校図書館専門員連絡会に参加させていただき、情報交換をしています。

年度の初めに行われる第一回の会で、新任の方との交流を目的に、団体貸出の紹介をし、利用する上での質問や疑問に答えています。このほかに、除籍資料や寄贈資料の学校での活用や「夏休み・せいせん図書」についての情報も提供しています。

また、年に数回行われる学校図書館専門員研修にも図書館職員が参加させていただき、一緒に学んでいます。

参加する機会を増やして、さらに理解を深めていきたいと思っています。

